後藤新平とローレツ博士

名古屋に甦（よみがえ）る

後藤新平展

明治から昭和初期にかけて医師・教育者・政治家として活躍した後藤新平は、明治9年に現名古屋大学医学部の前身である愛知県公立病院に着任し、名古屋での約6年半を医師・教育者として過ごしました。
この時期は、彼の行政手腕が開花する重要な時期となりました。

2025年 3月11日(火) ▶ 30日(日)

午前10時～午後5時　毎日開催

会場：中部電力 MIRAI TOWER　3階

入場料無

主催：一般社団法人 後藤新平の風　http://shinpeinokaze.com
中部電力 MIRAI TOWER　https://www.nagoya-tv-tower.co.jp

後援：NHK名古屋放送局　名古屋市中区役所　名古屋大学医学部　岩手県名古屋事務所

名古屋に甦る 後藤新平展

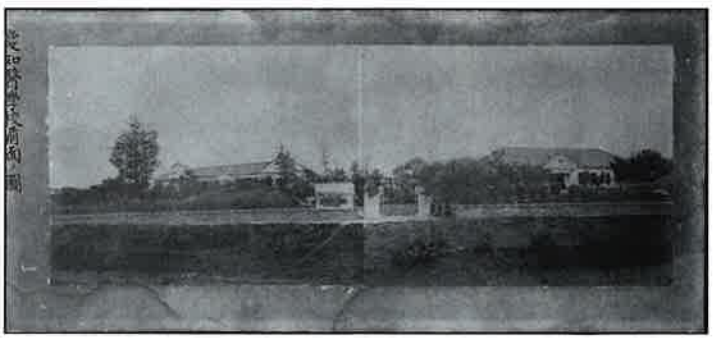
後藤新平（ごとう しんぺい）とは？

愛知病院長兼愛知医学校長時代

後藤新平（1857～1929）は、大谷翔平と同じ岩手県水沢生まれ。
福島県の公立医学校卒業後、19歳～25歳まで名古屋に住み、通訳兼医師の司馬凌海にドイツ語を学び、オーストリア人医師ローレツから最先端の医学・衛生学・法医学などを学んだ。西南戦争時には大阪と京都で傷病者とコレラの集中治療も体験。多くの人を救う衛生に着目し、予防と緊急対応の体制を組織化した「愛衆社」を全国に先駆けて設立した。
24歳という若さで愛知病院、愛知医学校の病院長兼医学校長に就任。最高レベルの甲種医学校への格上げも実現し、名古屋帝国大学創設につながるなど、多感な青春時代をエネルギッシュに駆け抜けた。岐阜で板垣退助襲撃事件の際に名古屋から駆け付け治療したエピソードは有名。
25歳で内務省衛生局長長与専斎に抜擢され、衛生局入り後は、全国の衛生普及活動で活躍。ドイツ留学後、衛生局長に駆け上がり、日清戦争帰還兵の大規模検疫による感染の水際防止の検疫施設を２ヶ月で構築して約23万人の検疫に成功。欧米が驚嘆し、日本を見直すきっかけとなる。
この活躍により台湾総督府民生局長に抜擢され、更に南満州鉄道初代総裁、逓信大臣、内務大臣、外務大臣などの要職を歴任。その後、東京市長時代に東京改造計画を練ったことが関東大震災直後の帝都復興計画に繋がる。更に大震災時の混乱を直視し、ラジオ放送の実現に尽力して東京放送局を設立、初代総裁を務めた。翌年、名古屋放送局と大阪放送局を統合して日本放送協会（ＮＨＫ）となる。若者の健全な育成を図る少年団日本連盟も立ち上げ、有名な「自治三訣」を提唱。医師・教育者・行政官・政治家・都市計画家・社会啓蒙家など多彩な顔を持ち、現在も多方面に大きな影響を与えているが、名古屋時代がその後の飛躍の基盤になっている。放送100年を機に名古屋に甦ります。

東京市長時代

『明治初年愛知県公立病院外科手術の図』（名古屋大学医学部史料室）
左端の襷に眼鏡で麻酔をかけているローレツ
片膝立ちの執刀医が後藤新平
患者の右腕を支える和服に襷姿が司馬凌海



『明治17年頃の愛知病院・愛知医学校』
（名古屋大学医学部史料室）

『21歳頃の後藤新平』
（後藤新平記念館）